

■ テキストと直前研修から、とくに印象に残った学びは？ <記述式回答>

3級検定（検定公式テキスト&直前研修）

【第1章：「ボランティアの理解」】についてはかなり広範にわたって学びがあったとの回答をいただきました。全般的にボランティアの理念や意義を理解できたとの回答が多く得られました。章・節ごとに主なものを紹介します。

◆「ボランティア」の語源と、そのキー概念

この節では、ボランティア活動のキー概念のうち無償性に関する学びをあげた方が多く、関連して「有償」の捉え方や無償との境界について整理されたとの回答が複数ありました。

（主な回答）

- ・ ボランティアの特性の一番が自主性にあるということ。始める自由もやめる自由もあるということ。市民によって成立するものであること。
- ・ ボランティア活動は特別視されやすいが、暮らしの延長にあり、普段の暮らしを「開く」と公共的になるということ。
- ・ 経費のことで不明な部分があったが、有償スタッフとの区分けがはっきりした。
- ・ 「有償」と「無償」の関係や、「ボランティア」と「奉仕活動」の関係など、概念の整理ができた。
- ・ 有償と無償の区別
- ・ 有償無償の整理がわかりやすかった。
- ・ ボランティアとお金（報酬）の関係がとても参考になりました。
- ・ 「有償ボランティア」の是非について取り扱ったとき、自分の中で漠然と感じていた「有償」への違和感がはっきり形になったと思いました。

また、「ボランティア」と「奉仕」との違いをあげた方も複数いました。

（主な回答）

- ・ ボランティアは「慈善」や「奉仕」の活動ではなく、自らの中に芽生える他者との共感や問題意識に基づく活動であることがしつかり認識できたこと。
- ・ 奉仕とボランティアの違い

◆ボランティア活動の意味

この節ではボランティアの必要性への理解や行政とボランティアの違いがあげられています。

（主な回答）

- ・ 「ボランティアはやっぱり今の世の中必要なんだ！」と、ボランティアに関わることにとても前向きに考えられるようになったことが印象に残っています。
- ・ 行政とボランティアの違い
- ・ 行政サービスとの関係

◆日本におけるボランティア活動の歴史

この節をあげた方が大変多かったです。初めて知ったという学びだけでなく、あらためて整理されたという方もいました。

（主な回答）

- ・ボランティア活動の歴史について、系統立てて知ることができた。
- ・ボランティア活動の歴史が新鮮だった。
- ・ボランティア活動と推進の歴史について、多様な分野の発展過程をあらためて時代に沿って学ぶことができた。
- ・ボランティアの歴史を知ること意識が高まった
- ・ボランティアの歴史的背景や現状の社会的背景を学び、「今」だけでなく、「未来」への展開について考えるきっかけになった。

◆ボランティアを、どうとらえるか

この節ではNPOの概念整理、NPOとの関係性について学びがあがりました。

(主な回答)

- ・私自身がNPOで働いているので、NPOとは何か、NPOとNGOについて、ということを知ったことは意義がありました。
- ・NPOとNPO法人、公助と共助等の区別や成り立ち等
- ・NPOとNGOの違い、ボランティアの捉え方などを再認識し、他者に説明できるようになったり、企画を考える視点に生かしたりできた。
- ・ボランティアは恋愛に似ている。

◆ボランティア活動の課題・弱点

この節では複数の方が「自発性パラドクス」をあげました。

(主な回答)

- ・自発性パラドクスやバリアなどの存在と改善策
- ・「自発性パラドクス」(←経験があります)
- ・ボランティア活動の意義・課題・弱点。受講前はこれらを抽象的には理解していましたが、受講後は理論的に理解することができました。

【第2章：市民社会とコーディネーション】については、われわれの社会がいま“コーディネーション”の機能を求めていることへの大きな視点での理解と、具体的なコーディネーションにおいて何が重要なのかを学んだという回答が多くありました。

◆私たちの生活は「コーディネーション機能」を必要としている

◆私たちの社会はさらなる「コーディネーション機能」を求めている

この二つの節では、コーディネーションのそもそもの意味についてあげられました。

(主な回答)

- ・コーディネーションの定義
- ・「市民社会とコーディネーション」の中で、生活の中で必要としているコーディネーターの存在に関するお話が印象的でした。ついつい自分だけで突っ走ってしまいがちになりますが、対等な関係づくり、人とのつながりを生み出す力など、相手あってこそコーディネーターなんだなということを強く実感しました。
- ・現代社会においては調整力が必要とされているということ
- ・「対等」であること

・コーディネーションの機能・役割についての整理

◆市民社会づくりと「コーディネーション」

ここでは具体的な機能についての学びがありました。

(主な回答)

- ・総合力や新たな解決力を生む。
- ・コーディネーションの意味として、全体の調和を生み出すことだけでなく、各々の要素を対等にするというものもあることを初めて知りました。そのような思いを持ってコーディネートをしていなかったため、今後はそういったことも頭に入れて業務にあたろうと思いました。
- ・多様な人や組織を対等な関係で結びつけること。
- ・コーディネーションについて分かりやすくまとめてあったため、自分の仕事の整理に役立った。
- ・第2章第3節P79モノ・サービスを組み合わせるはたらしのところで、「主体はどこにあるのか」ということです。ボランティア活動に熱心なあまり、主体を見失ってしまったり、主体が自分自身になってしまう場合があるからです。常に忘れてはいけないことだと思いました。

◆市民社会づくりにおいてコーディネーション機能が発揮される場面

(主な回答)

- ・ボランティアの理解や歴史は他の研修会でも学ぶ機会があったが、市民社会との関わりや理論、具体例を示しての研修はなかなか機会がなかったため、勉強になりました。
- ・「人と人とのつながり」

【第3章：ボランティアコーディネーションの理解】 については、とくにボランティアコーディネーションの事例から多くの学びがあったようです。

◆ボランティアコーディネーションとは

(主な回答)

- ・ボランティアコーディネーションの基本的理念
- ・コーディネーションの機能・役割についての整理
- ・ボランティアコーディネーション機能を理解し、自分の仕事に活かすこと。
- ・ボランティアコーディネーターの役割やあり方について
- ・ボランティアコーディネーションの社会的意義

◆ボランティアコーディネーションが求められる場

◆ボランティアコーディネーションの視点

第2節の事例、これを解説した第4節の視点については多くの方々から具体的な学びがあったとの回答が得られました。

(主な回答)

- ・ボランティアコーディネーションの事例に興味深く拝見しました。ボランティアコーディネーションに関わり始めたばかりですので、どう

いった場面で、どのようなコーディネーションが必要とされるのか、様々な事例が勉強になりました。

- ・テキスト「ボランティアコーディネーション」の事例
- ・第3章第4節の事例にあった、具体的な問題点や解決方法への導き方が参考になった。
- ・いくつかの事例をもとに、ボランティアコーディネーターとしての関わり方の説明があり、自分自身の経験と照らし合わせて考えることができた。
- ・第3章において、色々な事例について学べたこと。
- ・コーディネーション力を高めるための具体的なかかわり方のヒント
- ・ボランティアコーディネーションの理解について事例等が印象に残りました。
- ・ボランティアコーディネーションの視点
- ・ボランティアコーディネーションの視点で改めて整理された。

◆ボランティアコーディネーションとボランティアコーディネーター

ここではボランティアコーディネーターに対する位置づけや社会的なポジション、理解を押さえたが、専門スタッフとしての理解にもつながったようです。

(主な回答)

- ・市民が主体的に社会の問題解決に取り組む市民社会の実現のため、市民の社会参加意識を高め、積極的に行動することを支える専門スタッフとして「ボランティアコーディネーター」の存在が大変重要な意味を持っていることを学ぶことができたこと。
- ・ボランティアコーディネーションの歴史的背景を知り、コーディネーションの深みを感じた。
- ・特に市民社会のとらえ方とその創造におけるボランティアコーディネーターの役割については、自分自身もそういう社会の実現に何か役目を果たしたいと強く共感した。
- ・ボランティアコーディネーションの歴史
- ・ボランティアコーディネーションの歴史については、現在あることの出自やバックグラウンドが分かり、面白い部分がありました。
- ・ボランティアコーディネーター基本指針

◆ボランティアコーディネーターの8つの役割

(主な回答)

- ・8つの役割
- ・第5節でまとめられた役割で自分のすべき業務が明確になった。

◇テキスト全般

- ・今まで感覚的に行い、また自分流のメソッドを持っておりましたが、テキストとして明文化されたものを見て考え方の整理ができました。
- ・すべて、勉強になりました。ボランティア活動に携わっている人にとって、必要な知識でした。日本の社会の理解にも役立ちました。
- ・基礎的な事柄の確認が出来て、自信を持てた。
- ・全体的に、漠然と理解していた「ボランティア論」「ボランティアコーディネーション論」などを体系的に学び、理解することができ

ました。

- ・テキストに目を通してある時に、基本的なことが1冊のテキストにまとまっているので、振り返る時や迷った時にこの1冊を確認したらいいなと心強く思いました。
- ・J V C Aブックレット②「ボランティアコーディネーター基本指針」を紹介され購入しました。それを熟読したことで次の2級検定も受けてみたいと思いました。
- ・ボランティアをしたい潜在的意識を持つ人に対して、活動することを誘うことができるようになったと思う。
- ・検定を受けなくてもテキストとしては、内容が充実していて、読み解く自体が学びとなった。

◇直前研修について

- ・テキストの内容を研修でおさらいしていただきより理解が深まった。テキストに載っていない話も聞けて良かった。
- ・グループワークがあるなど、他の受検者との交流ができたこと
- ・短時間なのに、あれだけ内容の濃い講義をして下さった講師の方々に感謝しています。
- ・研修を若干甘く見ていたが、検定には研修で確認した内容が結構出たので、研修もおろそかにしてはいけないと思った。
- ・全体を通じて、モチベーションが高まり、2級の研修を受講したくなりました。
- ・研修は合格させるための研修であるように感じられた。
- ・過去に受けた「ボランティアコーディネーター研修」の内容と大旨同様であった。
- ・コーディネーターを業務（仕事）としていなくても、ボランティアに関わるものが、必要最低限おさえておくべき歴史や存在意義などがテキストと研修で学べた。
- ・直前研修前に、テキストを一読しておくことで、講師の方の説明がより深く理解できた。
- ・研修はボランティアとボランティアコーディネーションが体系的に学べた。
- ・テキストに一通り目を通して内容は理解していた。
- ・「なんとなくわかっていた」ようなつもりになっていた事柄が整理できた。

◇3級検定のレベルについて

- ・検定の案内パンフレットに載っていた検定試験の例題と実際の問題の難易度が違ってびっくりした（本番の方が難しかった）。
 - ・ごく当り前で基本的な内容だと思った。
- ◇多くの学びがあったとの回答とともに、期待していたものとは違ったという回答もありました。
- ・印象に残ったことは、私にとってボランティアコーディネーションに役立つ内容が全く無かったということである。
 - ・3級では業務には活かせない。

2級検定（2級検定サブテキスト&直前研修）

【前半をテキストについて、後半を研修についての意見を紹介します】

◆2級検定サブテキスト

- ・福祉に限らないボランティアの多様性やそれぞれの繋がり、そしてNPO（含法人）との関係などを学ぶことができた。

- ・ 災害ボランティアなど通常のコーディネーションとは違う場合について
- ・ 多様な分野のコーディネーション現場が具体的に整理できた
- ・ 地域コミュニティについて
- ・ 分野ごとの現状についてのサブテキストは参考になった。
- ・ 様々な領域の事例
- ・ 多分野でのボランティアコーディネーションの特徴について
- ・ 自分の関係しているジャンル以外の幅広い学びの必要性を感じた。
- ・ 各分野についての専門的な知識・理解。それを備えていることによる説得力。
- ・ 分野別のボランティアとコーディネーターの活動状況
- ・ ボランティアコーディネーターの視点について再認識した。
- ・ ボランティアコーディネーションの体系
- ・ 「ボランティアコーディネーションの全体像」の詳細
- ・ ボランティアコーディネーションの全体像
- ・ 「構成要素」としてポイントが整理されたことで、これまで漠然と実践したことに自信が持てるようになった。
- ・ ボランティアコーディネーターという役割、機能について
- ・ ボランティアコーディネーション力は、価値、知識、スキルで構成され、そのスキル部分がNPOマネジメントのスキルとよく似ていること。
- ・ 言語として表出した個人のニーズを解決することとわれがちだったが、潜在的なニーズを探ることや活動のパワーアップによる社会的課題の解決を側面的に支援していくことの重要性を改めて学んだ。
- ・ ボランティアマネジメント
- ・ ボランティアマネジメントの一連の流れ。
- ・ 「コーディネーター」の役割などを学び、業務の上で生かすことができた。
- ・ コーディネートの実務

◆直前研修

- ・ ボランティアコーディネーションの実務 I、II でのワークシートを使って研修、ミニワークで、より実践に近い経験が得られた。
- ・ 演習のシート 2「1 市民の社会参加・協働を促進する」②顕在化したニーズへの対応というグループワークがおもしろかった。入りにくいVCへの工夫で、ウエルカムボードを出すというアイデアが秀逸だった。
- ・ グループワークがふんだんに取り入れられていて良かったと思う。
- ・ 講師の話の中に検定問題のヒントが多く含まれていて（試験に出るところをさりげなく講師が強調されていて）、講義の進め方が秀逸だと思いました。
- ・ 実際にケースワークしていったこと。他の人の考え方やベストな対応を教えていただいたことが実践で役立っている。
- ・ いつもは自分の立場で考えがちだが、「中間支援（活動の場につなぐ）」の立場と、「受け入れ組織（活動の場における）」の立場の両方から事例検討をできたのが、とても学びになった。
- ・ ケース検討で、さまざまな人と意見を交えることができたのが、うれしくもあり大変刺激になった。自分がしたかったことができるんだ！と感じられた。

- ・異なる分野のコーディネーターとグループワークができたこと
- ・グループに分かれて討議や演習をしたことです、様々な分野でコーディネーターをしている人たちと出会え、励みになりました。
- ・他地域からの受験者との交流の中で、問題解決への方向性のヒントをみつけたこと
- ・とくに演習が実際にやりながら考えることができたので、わかりやすかった。ボランティアマネジメントの話の中で、プログラム開発の話が、普段の業務にも役立つ内容で勉強になった。
- ・関東地域の参加者は、一般の方や定年後の団塊の世代の参加者が多かったので、よい刺激になった。
- ・グループワーク
- ・早瀬さんの講義がわかりやすかった
- ・グループワークから学ぶものが多くあったので、検定のみならず、職務上も参考になった。ふだんは使いませんが、専門用語を知ることができた。
- ・いろんな立場や視点を持つことが必要であることを、改めて実感した。
- ・演習の場面において、グループごとの事例検討及び苦情内容（連絡忘れ等）についての意見交換。
- ・ワークショップの事例を通して、様々なコーディネーターのいろいろな考え方があったのを知った。他のコーディネーターの意見はとも参考になった。
- ・事例を元にした模擬ワークは、実際のコーディネートと重ねてイメージしやすく、参考になりました。
- ・ボランティアコーディネーターの指針を自覚しながら業務に当たっています。
- ・演習の中で、周りの人たちの考え方を知ることができたこと、そして他者の考えを受け入れることの重要性を再認識しました。
10年以上ボランティアに関わる仕事をしていると、どうしても一人よがりになりがちで…とても反省しました。ボランティアコーディネーションの重要性とそこに求められる人材のあるべき姿が自分なりに明確になりました。その姿を理想として描きながら業務にあたっています。
- ・事例を読み、共感したり、振り返り、反省や学ぶ点があった。また異なる分野から学び活かせるという気付きがあった。
- ・例題をあげての参加者でのワークがよかった。
- ・ボランティアコーディネーションを他の参加者の方とともに演習することで、視座の置き方の相違や多角的に問題を見ることの重要性を感じた。
- ・事例検討
- ・グループでの事例検討形式ではアウトプットすることで消化できた。ボランティアが活躍する場では改めて多様な現場のコーディネーションを認識できた。
- ・グループワークでの新しい仲間との出会い
- ・3級での基本的なボランティアコーディネーション等の学びをベースに、2級研修ではさらに参加者同士のワーク等を通して、他分野（多分野）・他機関（団体）のボランティアコーディネーションの特徴などを学ぶことができましたし、所属組織（福祉）以外の他分野とのコラボレーションなど、分野を超えたコーディネーションの可能性と必要性を実感することができました。
- ・事例を通して、問題点を捉えるワークがとても勉強にもなり、自分のコーディネーションの振り返りにもなりました。
- ・様々な立場でボランティア活動の現場でコーディネート業務に関わっている方とワークしたことが印象的。課題を整理して解決するだけでなく情報共有したり情報発信してさらなるスキルアップを図ることを学んだ。
- ・現実には、まだまだ協働による問題解決の場面に遭遇するまでに至っていないのですが、コーディネーションの可能性と展望を

見せていただいた。

- ・ 3級検定の研修で難しさを感じていた社会性について化膿や関係・組織を開くための具体的な事例を学び少しずつ理解を深めることが出来た。
- ・ 3級のコーディネーション力ということがあらゆる年代、あらゆる人生のシーンで最強の言葉と自覚しました。それを2級は細分化した内容と思いました。
- ・ 行政、ボラセンなどの業務のための座学中心の検定試験になっており、企業をリタイアしてボランティア活動をするために必要な知識とできれば体験をしたいと期待したが荷が重かった。定年退職後にボランティアしたいと思っているシニアの教育と訓練も兼ねた検定にして頂ければ挑戦したい。

1級検定（1級検定テキスト&直前研修）

【前半をテキストについて、後半を研修についての回答を紹介します】

◆ 1級検定テキスト

- ・ 「包括的ボランティアコーディネーション」の定義そのものが自身の業務上でのビジョンを与えてくれた。
- ・ 「包括的なボランティアコーディネーション」という、ものの見方と考え方。
- ・ プログラム開発について
- ・ ボランティアプログラムの開発とその演習
- ・ ボランティアプログラムの開発と推進。
- ・ 協働のための合意形成の進め方
- ・ 「協働のための合意形成の進め方」準備、対話、可視化、確認、振り返りで合わせていくポイント。

◆ 直前研修

- ・ グループワークすべて
- ・ ワーク。テーマを選択しての分科会での学び。
- ・ 単なる事例のグループワークではなく、社会の課題解決のためのプロセスを創っていくワークが研修や検定内容に加わったことで、コーディネーター自らが強いミッションと創造力を持つ必要性を感じた。
- ・ 事例に対しての視点の多様性を、演習の中で再実感しました。
- ・ グループワークでの個人の意見とグループの意見の集約、事例研修、ワークショップ
- ・ 具体的な方策との提案力を試されたこと。
- ・ 他者との協働の様子を見られたこと。
- ・ 実践的な力が求められているということを実感した。